

PC ネットワークの管理活用を考える会

クライアント管理勉強会 第2回

ハードウェア・ライフサイクルを管理する

柳原秀基

hide3@yanagihara.cc

対象者とゴール

- 対象
 - これからクライアント PC の運用管理を始めようという方。
 - IT資産管理が必要だが、どこから始めれば良いか迷っている方。
- ゴール
 - PC 管理の基本となるハードウェア資産管理を、ライフサイクルとして理解し、突発作業に振回されない管理体制を構築できる。
 - IT ガバナンス、IT マネジメントと IT 資産管理の関係を理解する。

アジェンダ

- クライアント PC 管理の反省と、あるべき姿
- IT ガバナンスと IT マネジメント
- IT ライフサイクルマネジメント
- クライアント PC ハードウェア資産管理の手順

PC 管理の歴史（経緯）

- 1990 ～ 1995 年
 - スタンドアロン PC 主体から, Windows PC の大量導入へ
 - ホスト端末と Windows PC の差が歴然とした時代
 - パソコン操作に詳しい社員が面倒を見ていた時代
- 1995 ～ 2000 年
 - Y2K (西暦 2000 年問題) 対応のために, ハードウェアの棚卸しが行われる。
 - 様々な PC の存在が明らかになり, 継続的なハードウェア資産管理の必要性が判明。

初期の問題点

- 管理責任者，責任部署の不在
 - 「管理が必要」という認識の欠如
 - 単にPCに詳しいというだけで，兼業のまま成行き管理。責任は無いが，予算も経費枠もなし。
 - 既存組織の部門長は，PCを理解できないので，誰も手を出さない。
- 部署毎に情報化推進委員会(?)が乱立
 - 部署毎の単独行動。横の連携なし。
 - 部署別の部分最適の追求
 - 場当たりの管理作業

場当たりの PC 管理へのギモン

- 管理圧力の急増
 - バブル崩壊後の不景気と経費削減
 - 西暦 2000 年問題 (1998 ~)
 - 個人情報保護法 (2003/5 成立)
 - 情報セキュリティ, 情報漏えい対策の強化
 - 内部統制 / J-SOX (2006/5 会社法に明記)
- 管理圧力が増えるたびに, 管理項目・手順を都度追加実施
- 事業部毎の部分最適に対するギモン

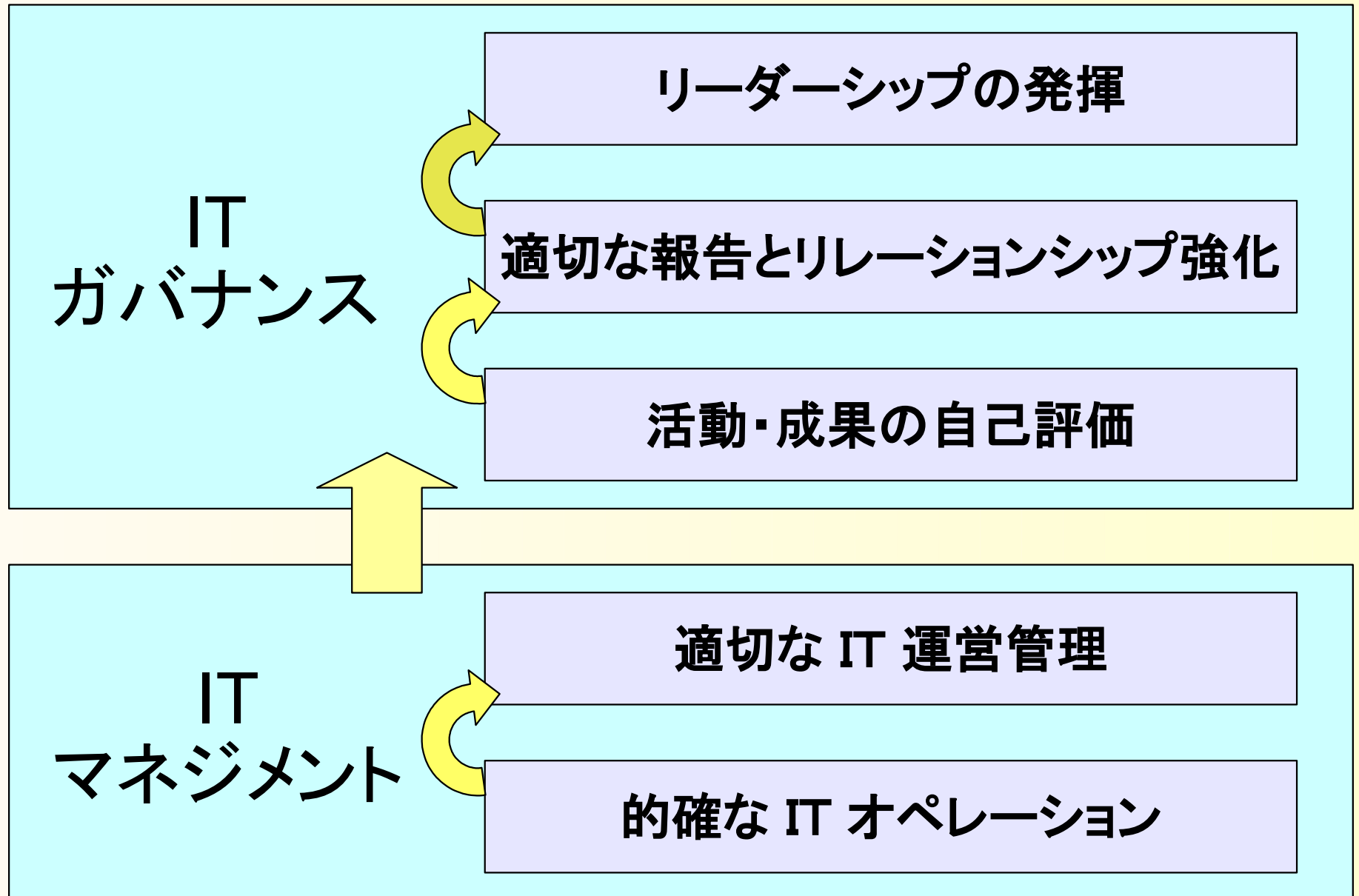
クライアント PC 管理のあるべき姿

- 管理者は単なる PC の手配屋ではない
 - 社内 PC の現状とユーザの IT リテラシーを把握し、
 - 組織が IT に求める役割を理解した上で、
 - 限られたリソースを有効活用し、
 - IT ガバナンスの確立に寄与すること。
- IT ガバナンスとは
 - 「企業が競争優位性の構築を目的として IT 戦略の策定及び実行を**コントロールし、あるべき方向へと導く組織能力**」
 - 「企業が、IT に関する企画・導入・運営および活用を行うにあたって、すべての活動、成果および関係者を**適正に統制し、目指すべき姿へと導くための仕組みを組織に組み込む**こと、または、組み込まれた状態」

ITガバナンスの6分野

IT ガバナンスの 6 分野	9 項目の取り組み
1. 基本戦略	1-1. IT 利用の基本方針策定
	1-2. 全体組織化の取り組み
2. 推進体制	2-1. 組織体制の確立
	2-2. 人材の確保・配置
3. 予算・実施計画・ 評価	3-1. 予算・実施計画の策定
	3-2. 評価の実施
4. 調達・開発・運用	4. 調達・開発・運用の管理
5. 情報セキュリティ	5. 情報セキュリティの確保
6. 標準化・知識共有・ 人材育成	6-1. 標準化・知識共有
	6-2. 人材の育成

どこから着手すれば良いのか？



ITライフサイクルマネジメント

- ◆ 機器入替計画策定、予算確保
- ◆ PC利用基準作成、導入PC標準仕様メニュー化

- ◆ データ消去
- ◆ 廃棄
- ◆ 返却

- ◆ 機器発注
- ◆ 経理処理



- ◆ 障害切り分け応
- ◆ 予備機準備、発送
- ◆ 機器修理

- ◆ PC キットイング
- ◆ 配送・設置
- ◆ データ入替
- ◆ 資産登録

- ◆ 資産管理
- ◆ セキュリティ対応
- ◆ ヘルプデスク
- ◆ 棚卸し
- ◆ ソフトウェア管理

PC管理の実務(1)

• 計画

- 入替・導入計画策定
- 実態の把握
- 入替基準の策定
- PCの標準決定(機器仕様、オプション、OS、導入ソフト)
- 調達方法の決定
- 新規取得・入替機器台数見積もり
- 見積もりの取得
- 予算確保

• 調達

- 機器の調達依頼の内容確認
- 機器発注
- 納期確認
- 受領
- 経理処理

PC管理の実務(2)

• 導入

- 稼動確認
- セットアップ
 - 標準、個別
- 配送
- 設置
- 既存機とのデータ入替
- 付属品の保管
- 資産登録

• 運用

- 資産管理
 - 利用者情報、構成情報、周辺機器の構成情報、ライセンス情報
- セキュリティ対応
 - セキュリティパッチの適用
 - アンチウィルスソフト導入・パターンファイル更新
- ソフト管理
 - ソフト配布、バージョンアップ、パッチの適用
- 棚卸し
- ヘルプデスク

PC管理の実務 (3)

- 保守

- 障害切り分け
- 代替機の確保
- 故障状態の把握
- 代替機の手配、セットアップ、送付
- 修理手配、見積もり、発送、修理受領、検収
- 代替機の返却受け取り
- 代替機の初期化

- 返却・破棄

- データ消去(実施者、消去ソフト選定、調達、作業実績把握)
- 返却品の確定(付属品、マニュアル類)
- 返却(納期、返却場所、返送方法)
- 欠品時対応
- 廃棄方法

ハードウェアとは？

- コンピュータを構成している物理的実体
 - 重さと形がある。
 - 電源や消耗品を必要とする。
 - 処理能力に上限がある。
 - 経年変化がある。
 - ソフトウェアが要求する負荷とのバランスが大切
 - モノによって、廃棄方法に注意が必要。
- Type
 - 据え置き型
 - 可搬型

ハードウェアの特徴

- 急激な進歩
 - 速度の向上と、容量の増大。
 - 新しいデバイスが続々と登場。
 - インターフェイスの多様化。
- ソフトウェアとのバランス
 - 常にハードウェアの進歩が先行。
 - 新 CPU を生かした新ソフトウェアは、2～3年後に登場する。
 - ソフトウェアがバージョンアップすると、必ず動作が重くなる。

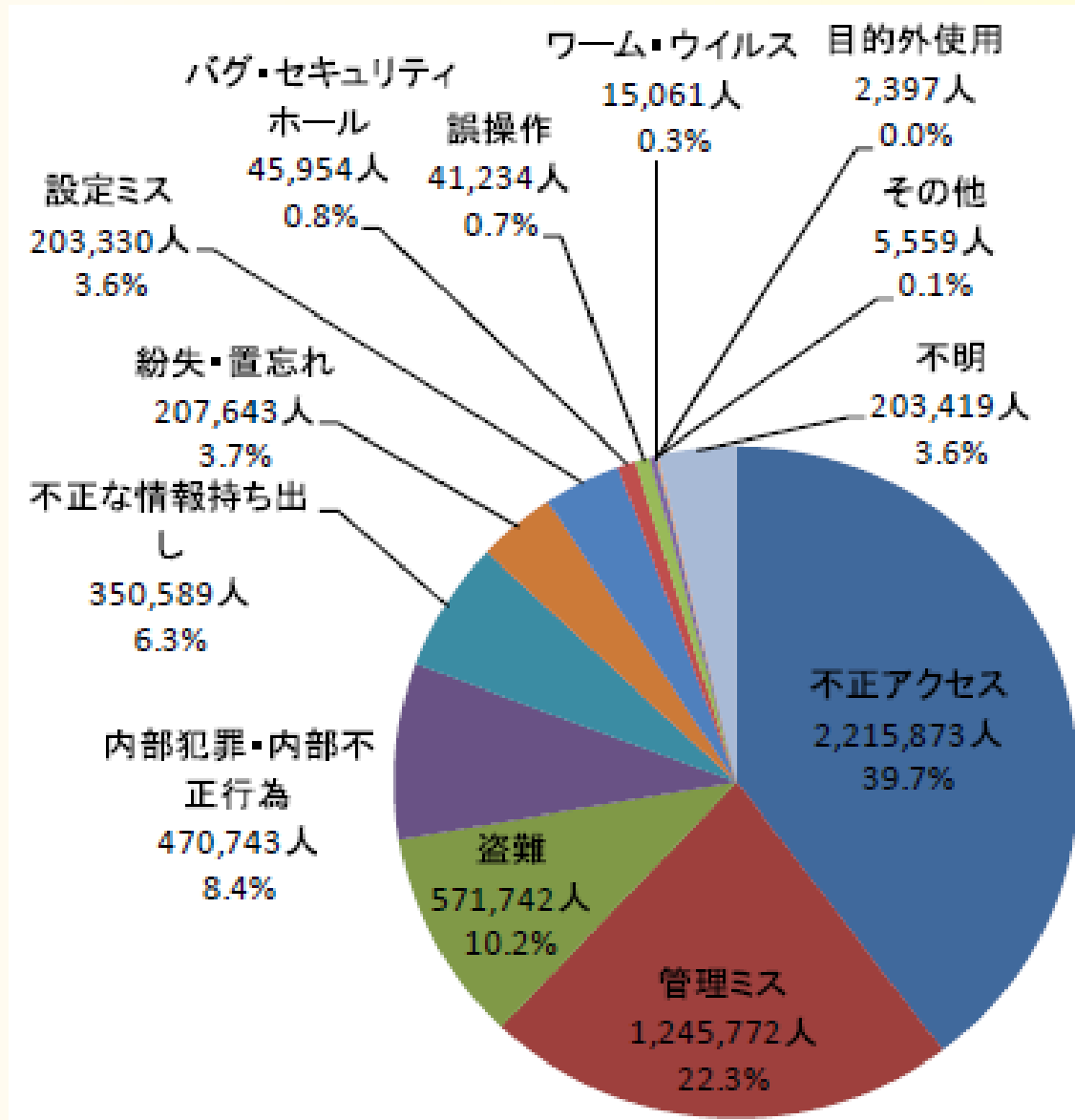
近年の特徴

- ソフトウェアライセンス管理の重視
 - コンプライアンス問題
 - 第1回勉強会で解説済み
- 可搬記憶媒体からの情報漏えい
 - USBメモリ等からの情報漏えいは減っていない
- 一人に複数のデバイス
 - 複数のPCと通信手段(モバイル)を持つ
- 在宅, リモート操作, VPNが必須
- BYOD

BYOD

- Bring Your Own Device
- セキュリティソフトのインストール義務づけ
- 自己所有 PC 使用の許諾請求や誓約書の提出
- 厳格なパスワード管理
- ハード・ソフトインベントリ提出の義務付け
- 仮想デスクトップ (VDI) の利用

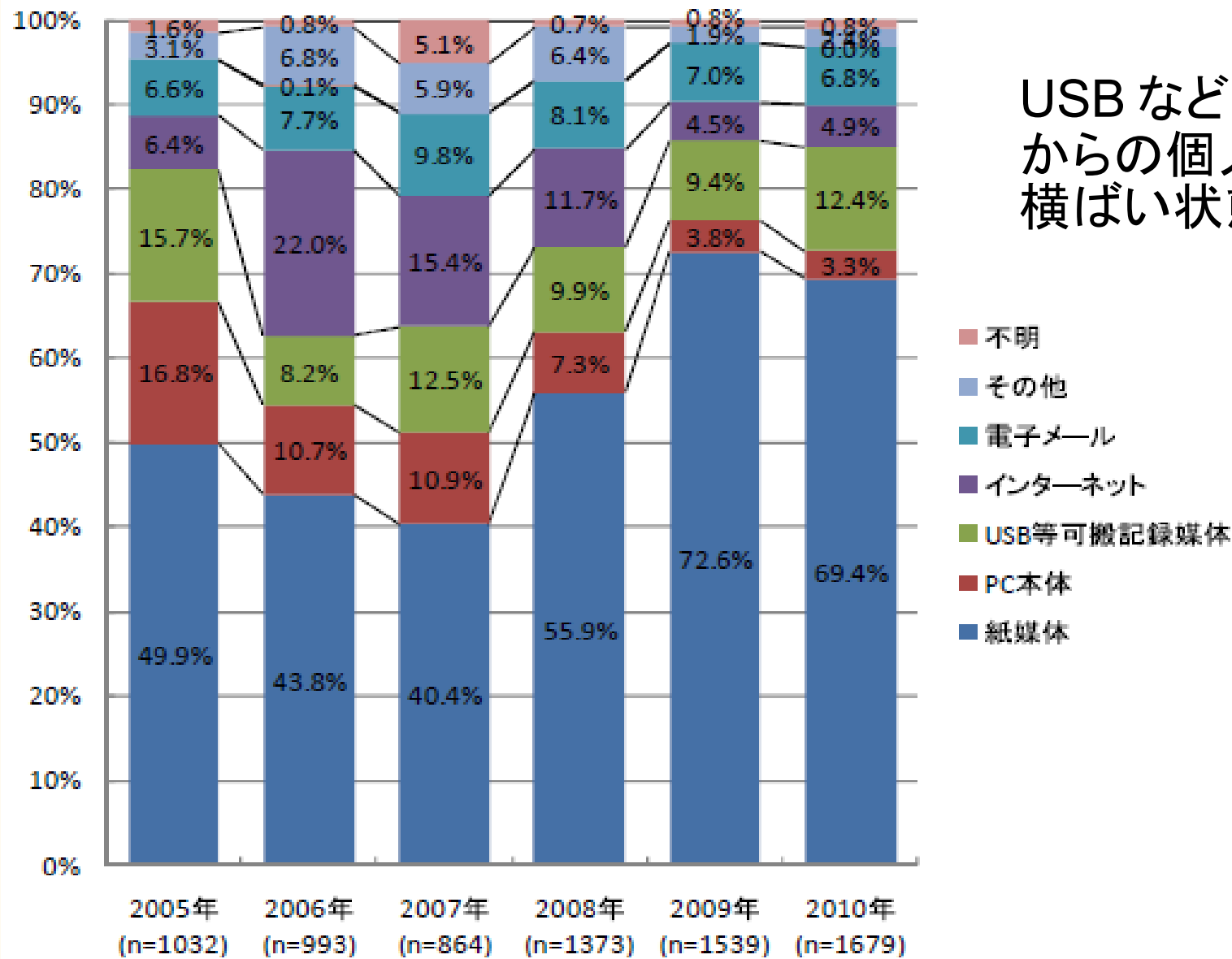
個人情報漏えいの原因(人数比)



IT資産管理による対策項目

- ・管理ミス
- ・盗難
- ・内部犯行・内部不正
- ・不正な情報持ち出し
- ・紛失・置忘れ

可搬記憶媒体からの情報漏えい



USBなど可搬型記憶媒体からの個人情報漏えいは横ばい状態

ソフトウェア管理の充実を前提とした ハードウェア管理の手順

- ハードウェアの取得
 - 購入 (A)
 - レンタル (B)
 - リース (C)
- ハードウェアの棚卸 (D)
- ハードウェアの保守・修理 (E)
- ハードウェアの返却・破棄
 - 購入品の破棄 (F)
 - レンタル品の返却 (G)
 - リース品の返却 (H)

管理手順を見るポイント(1)

- 複雑な関連部署の役割を明確化
 - 部署＝役割別になっている
 - 自社の組織構成に照らし合わせて読み替える
- アセット管理システム(DB)の利用を前提に
 - 複数部署から参照できるデータベース
- ハードウェアの入手ルート別手順を明記
 - 購入・レンタル・リースでは、取得方法と破棄方法が異なる。それらの注意点も盛り込んでいる。

管理手順を見るポイント(2)

- 標準構成 PC と, 非標準 PC
 - 一般業務用 PC の標準仕様・機種・種類(スペック)が業務内容にあわせて既に選定されている。
- 棚卸し
 - 棚卸しの実施後に発生する業務を明らかに。
- 申請, 審議, 承認ルート
 - 最も妥当と思われるワークフローを明らかに。
 - 各社の業務手順作成の参考に。

自社のハードウェア管理手順書を作ってみよう

- 手順書はあるか？
 - 無ければ、ぜひ作ってほしい。
 - 組織としてオーソライズされる努力を。
- 人事部門との連携
 - アカウント作成は一瞬だが、ハードウェアの調達には時間がかかる。
 - 採用計画，退職予想，組織変更について，可能な限り早く情報入手できるように。
 - そのためにも，早く「ITマネジメント」から「ITガバナンス」段階へ進んでほしい。

Q&A